



### 二本松茂原 「茂原三匹獅子舞」

創設は寛政12年(1800年)と伝えられ、踊の特徴をとらえて「花吸いがかりの獅子」とも呼ばれ、標高1057mの日山山頂で舞われるのが特徴です。(茂原氏子総代 前総代長 嶋原吉之助氏寄稿より抜粋)



### 川俣山木屋 「八坂神社三匹獅子舞」

約300年以上の歴史を持つといわれ、昭和39年に川俣町無形文化財の指定を受けています。優雅で力強く、躍動的な踊りが特徴です。(保存会副会長 菅野清一氏寄稿より抜粋)



### 飯舘比曾 「比曾三匹獅子舞」

伝承や、獅子頭、腹太鼓の銘から約200年前には舞われていたと伝えられています。勇敢な獅子舞が特徴的で、幕末のころ相馬藩主が巡視の際、獅子舞を見ていたく感心し、家紋である「九曜紋」を付けるのを許可したと伝えられています。(比曾地区史 比曾の民俗伝承より抜粋)



### 二本松田沢 「田沢三匹獅子舞」

約150年前の安政2年(1855年)頃に始まったと伝えられています。地元では、「田沢の獅子舞」「田沢の三匹獅子舞」あるいは舞の特徴から「花吸いがかりの獅子」とも呼ばれています。(田沢獅子若連 大世話人 古沢正晴氏寄稿より抜粋)

# 続いていく文化 受け継がれる伝統

11/2~3 塩の道郷土芸能交流会



**今も往時の面影を残す「塩の道」**  
江戸時代、相馬藩の貴重な物資であった塩や海産物は、道を通って遠く会津の地まで運ばれました。当時の街道筋には荷物を検査する場所や塩倉が置かれ賑わいを見せていました。今も面影の残る街道跡や伝統文化は、遙か時代を越えて、当時の姿を私たちに伝えてくれます。

**次世代に伝えたい、残したい「伝統」**  
厳しい自然で生きる村人たちの豊作を強く願う気持ちの結果、脈々と受け継がれている芸能です。約200年前から伝わったとされる比曾の三匹獅子舞も、その一つです。

塩の道郷土芸能交流会実行委員会(菅野民雄委員長)は、「塩の道」の共通文化をもつ二本松市(旧岩代町)田沢地区、同市(旧岩代町)茂原地区、川俣町山木屋地区の3地区と交流することで、伝承の足跡をたどりながら郷土芸能への認識を深め、地域の活性につなげていこうと、比曾集会所体育館で「塩の道郷土芸能交流会」を開催しました。各地区それぞれ特徴をもった三匹獅子舞の競演に、会場は終始熱気に包まれていました。来場者は「地元の三匹獅子舞しか見慣れていなかったの、地区によって構成も踊りもこんなに違うとは思わなかった」などと興味深そうに感想を話していました。

菅野委員長は、「他の地区との違いを知ること、地元の文化を見つめ直し、比曾の三匹獅子舞を次世代に伝えてほしい」と話し、次世代へ希望を込めていました。

上演後は、収穫感謝鍋などが振る舞われ、参加者や住民らは大いに交流を楽しみました。



### 11/2 前夜祭 七宮史浩さんライブよさこい演舞

前夜祭では、七宮史浩さんライブ、いたて愛によるよさこい演舞が行われました。4年ぶりに比曾地区でコンサートを行った七宮さんに、地区住民から、当時歌った曲をリクエストされる場面も。また、コンサートには、キーボードの@kazuさんも応援に駆けつけ会場を盛り上げました。住民らは七宮さんらの伸びやかな演奏に耳を傾け、歌に引き込まれていました。